

科目名	デジタルシステム設計		英文表記	Digital System Design		2017/3/13	
科目コード	4315					作成	
教員名	姉崎 隆						
技術職員名	釣 健孝						
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
メディア情報工学科	4年	選	学修	2単位	講義	前期	
科目目標【MCC目標】	いわゆるSoCシステムの構築では、ハードウェア処理とソフトウェア処理による機能分割を考慮したシステム設計・デバッグが必要となる。そこで、Webカメラを搭載した画像デジタルシステムを設計し、用途に応じたデジタルシステムの設計を習得する。さらにデジタルシステム上でハード&ソフト協調デバッグを実習する。 【V-D-4】【VI-D】【V-D-8 メディア情報処理】						
総合評価	報告書の提出/受付(50%)および実習方法に基づいた適切な実習を行えたか(50%)の合計点で評価する。実習経過の文書提出も後者に加味する。 以上により評価する。						
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック
	25%	① 画像デジタルシステムの基礎と最新動向が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について説明できる。(A-3)	提出報告書および毎週の実験内容で評価	画像デジタルシステムの基礎と最新動向が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について適切に適用、説明できる。	画像デジタルシステムの基礎と最新動向が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について説明できる。	画像デジタルシステムの基礎と最新動向の基礎が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について基礎的な説明ができる。	
	25%	② カメラ系の基礎が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について説明できる。(A-3)	提出報告書および毎週の実験内容で評価	カメラ系の基礎が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について適切に適用、説明できる。	カメラ系の基礎が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について説明できる。	カメラ系の基礎が理解でき、画像デジタルシステムの特徴について基礎的な説明ができる。	
	25%	③ ハード・マクロのCPUが理解でき、SoCとCPUの特徴、機能について説明できる。(A-3)	提出報告書および毎週の実験内容で評価	ハード・マクロのCPUが理解でき、SoCとCPUの特徴、機能について適切に適用、説明することができる。	ハード・マクロのCPUが理解でき、SoCとCPUの特徴、機能について説明することができる。	ハード・マクロのCPUの基礎が理解でき、SoCとCPUの特徴、機能について基礎的な説明ができる。	
25%	④ 組み込みシステムのソフトウェアとハードウェアによる機能分割について説明できる。(A-3)	提出報告書および毎週の実験内容で評価	組み込みシステムのソフトウェアとハードウェアによる機能分割について適切に適用、説明することができる。	組み込みシステムのソフトウェアとハードウェアによる機能分割について説明することができる。	組み込みシステムのソフトウェアとハードウェアによる機能分割について基礎的な説明ができる。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<本科教育目標> (3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する		
	○		◎				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物)	総合評価	セルフチェック
評価項目		0	0	50	50	100	
基礎的理解	①②③④			25	25	50	
応用力(実践・専門・融合)	①②③④			25	25	50	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲						0	
授業概要、方針、履修上の注意	デジタルシステム設計は、携帯電話や情報家電などのマイクロプロセッサが実装されている組み込みシステムでは、ハードウェアの小型化や高機能な製品を開発するために必要不可欠な技術である。設計されたシステムは、少量多品種の試作・評価ではFPGAに実装し、量産ではASIC等の大規模集積回路で製品化される。 このようなシステムの構築では、ハードウェア処理とソフトウェア処理による機能分割を考慮したシステム設計・デバッグが必要となる。そこで、Webカメラを搭載した画像デジタルシステムを設計し、用途に応じたデジタルシステムの設計を習得する。さらにデジタルシステム上でハード&ソフト協調デバッグを実習す						
教科書・教材	都度、教材(手順書、資料)を提示する。						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習) 内容	セルフ チェク
1	概要	2	本講義のシラバス説明		
2	画像デジタルシステムの実装①	2	画像デジタルシステムのセットアップ		
3	画像デジタルシステムの実装②	2	画像デジタルシステムのセットアップ		
4	画像デジタルシステムの実装③	2	画像デジタルシステムのセットアップ		
5	画像デジタルシステムの実装④	2	画像デジタルシステムのカスタム設計を実習する。		
6	画像デジタルシステムの実装⑤	2	画像デジタルシステムのカスタム設計を実習する。		
7	画像デジタルシステムの実装⑥	2	画像デジタルシステムのカスタム設計を実習する。		
8	Media Computerの設計と実装①	2	Media Computerの実装を実習する。		
9	Media Computerの設計と実装②	2	Media Computerの実装を実習する。		
10	Media Computerの設計と実装③	2	Media Computerの実装を実習する。		
11	Media Computerの設計と実装④	2	Media Computerの実装を実習する。		
12	Media Computerの設計と実装⑤	2	Media Computerの実装およびカスタム化設計を実習する。		
13	Media Computerの設計と実装⑥	2	Media Computerの実装およびカスタム化設計を実習する。		
14	Media Computerの設計と実装⑦	2	Media Computerの実装およびカスタム化設計を実習する。		
15	Media Computerの設計と実装⑧	2	Media Computerの実装およびカスタム化設計を実習する。		
期末	期末試験				
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期末	期末試験				
学習時間合計		30	実時間	22.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間	
①	3つの実習の学習後に報告書を課す。			各10時間×3回	
②					
③					
備考欄					
(各科目個別記述) ・この科目の主たる関連科目はデジタル回路(2年)、メディア情報工学実験Ⅲ(3年)、制御とロボット(5年) (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容 その到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分 専門科目④ B 情報工学に関する演習・実験・実習科目					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)

前期科目は前期部分のみ記述、後期部分は後期のみ記述し、実施期間が見た目す
ぐにわかるようにする。(開講しない時期は空欄)